

3年生の選択科目「生物活用」の授業で、タデアイの生葉染めに挑戦しました。

タデアイは、藍染めの原料となる植物です。葉には「インディカン」という成分が含まれており、これが空気に触れて酸化することで、青色の色素である「インディゴ」へと変化します。

まずは毛糸（ウール）をグループごとに必要な長さへ分け、「枷（かせ）」を作りました。毛糸にウールを使用したのは、動物性繊維の方が染料を吸着しやすく、美しく染まるためです。その後、毛糸を精練して汚れや油分を落とし、主役となるタデアイを収穫しました。



収穫した葉を茎から外し、染める材料の2～3倍ほどの量をミキサーにかけます。さらに洗濯用ネットで葉を濾して染液を作り、その中で毛糸を染めていきました。



染め始めた直後の毛糸は葉の色の影響で緑色に見えます。しかし、空気に触れて乾燥させることで酸化が進み、次第に美しい藍色へと変化していきます。染液に浸しては乾燥させる作業を繰り返すたびに色が濃くなり、生徒たちからは「すごい！」「色が変わった！」と驚きの声が上がっていました。

最後に毛糸をよくすすぎ、乾燥させて完成です。

今回染めた毛糸は、夏休み明けに制作するハロウィン飾りやクリスマス飾りに活用する予定です。自分たちで育て、収穫し、染め上げた毛糸がどのような作品に生まれ変わるのか、今から楽しみです。

